

五月晴れの田植えの五月は過ぎ、はや七月のセミの声を聴くような暑さが始まりました。愉しいはずの様々な催し。町民が集まる運動会や夏まつり・ビールパーティは根こそぎ延期、あるいは中止の憂き目を見えています。それでも、北海道で待たれていた緊急事態宣言が解除となり、町民の皆さま、少しは気持ち晴れたでしょうか。朝早く、あるいは静かな夕ぐれのひとつ、夫婦で仲良く散歩をしたり、孫やお子さんとたわむれる姿も見られます。また、仲間で飲食店に向かう姿もちらほら見かけると、嬉しくなります。苗ものを育てる楽しみもあり、子どもたちは少し早いけれど花火やプールに代表される夏の風物詩を楽しむにしています。新型コロナ騒動の渦中で、日常生活の大切さ、触れ合うことの温かさ、語り合うこと、豊かさを夢追うようにあこがれ続けています。その生活を私たちの手に取り戻したいと誰もが願っているのではないのでしょうか。

町長 田中一典

## モーター突進レポート

# 翔 SHOW TIME たいむ

vol.13



笹尾翔大です。今回の翔たいむではふれあい農園で田植えを体験してきました。小学校の田植え授業が行えなかった田んぼで手植えや田植え機の操縦も体験させてもらうことができました。

毎年、ふれあい農園では妹背牛小学校の児童たちが田植え授業を行っています。しかし、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で小学校が休校。田植え授業も中止となってしまいました。秋には稲刈り授業が出来ることを祈って農協職員や農家の皆さんにより田植えが行われることとなり、僕もお手伝いをさせてもらいました。



もともと児童たちが植える予定だった箇所は手植えをしていくのですが、この作業をするのは自分が小学生だった頃の田植え授業以来。要領はわかっているものの足を取られて上手く動けない感覚を思い出し、苦戦しながら進めていきました。だんだんと歩き方のコツを覚えてきたときでした。方向転換をしようとしたところ、バランスを崩して、そのまま尻から田んぼの中へ…。慣

れたきて油断していました。田植え機に乗せていただくこともできました。まかされたのは苗箱を入れ替える役割。これから植える苗が入っている苗箱を空になったものと入れ替えます。広い足場があるわけではなく緊張の中ひたすら苗箱を入れかえていきました。1往復した後、自分も運転させてもらえることに。運転席の前についている目印に合わせてハンドルを操作し、真っ直ぐ走らせていきます。思うようにはいかず、綺麗に一直線には出来ませんでしたが「初めてにしては上手」とお褒めの言葉をいただきました。



## 田植え 5/22 ふれあい農園

米どころ妹背牛町に住む地域の一員として米作りの一部を手伝わせていただき、その大変さを直に体験できたことは、とても貴重な経験でした。ありがとうございます。

米どころ妹背牛町に住む地域の一員として米作りの一部を手伝わせていただき、その大変さを直に体験できたことは、とても貴重な経験でした。ありがとうございます。

